

1 主題構成表

主題名 ルール違反

資料名 雨のバス停留所

<p>資料の分析</p> <p>雨降りの日に母親と外出した主人公よし子が、停留所でバスを待つ人々の順番を無視して列に割り込むが、母親の毅然とした行動を見て、自分の行動を反省し、規則を守ることの大切さに気づくという内容である。</p> <p>資料と類似した場面は、多くの児童が日ごろから共通に経験していると思われる。その意味で、児童たちにとっては身近な場面である。</p> <p>資料は、4つの場面で構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスを待つ間、雨やどりしている人々の後ろについてたよし子 ・ バスに一番に乗り込もうとして、母親に止められるよし子 ・ ようやくバスに乗り込んだときのよし子 ・ 自分のしたことをふりかえり、反省するよし子 <p>特に資料の最後の場面において、自分の行為を振り返るよし子気持ちに共感させ、きまりや規則の大切さに気付かせたい。</p>	<p>内容項目4-(1) 公德心・規則尊重 約束やきまりを守り、公德心をもつ。</p> <p>児童の実態</p> <p>子どもたちは、理解力があり、学級全体でも、気の合う仲間同士でも規則を作って遊ぶことができる。善悪について自主的に考えたり、集団の規則や遊びのきまりなどを客観的に判断したりする力もだんだん身につけてきている。</p> <p>それらの特徴を生かした、発展的な指導が求められる。</p> <p>しかし、M男のように、仲間や教師の指示や忠告に対して、素直に聞き入れることができない子がいる。集団の中で生活することが苦手なM男に対して、周りの仲間や教師が励まし認めていく中で集団のルールを獲得させていくことが重要となってくる。4年生という一段と活動的になるこの時期において、特に自らの行動を振り返り、その行動が適切であったかどうかを判断し、誤っていれば素直に改めるなど、適切な行動がとれるように指導したい。</p> <p>意識の要因</p> <p>きまりを守らなければならないことは、十分にわかっている。一方では、譲らず勝手にふるまってみたり、自己主張が原因で、ルールに従えなかったりすることがある。</p>	<p>価値の分析</p> <p>社会生活を円滑に営むためには、きまりや規則を守らなくてはならない。きまりや規則が守られるべきことは、だれもが分かっている。しかし、なぜかと問われれば、他律的な考え、利己的な考え等、様々な意見がでてくる。</p> <p>きまりや規則の意義と役割について理解できるようにするとともに、そのことを通して自分を省み、人間としての自分自身の在り方を考えられるようにすることが大切である。</p> <p>その問いかけによって、きまりや規則を守ろうとしても守れないことがある人間の弱さとともに、それを乗り越えていこうとする人間のよさを自覚することができるのである。</p>
<p>ねらい</p> <p>自分のことしか考えず、マナーを破ってしまったよし子の気持ちに共感させ、社会の決まりや規則の必要なわけを知り、進んで守ろうとする態度を養う。</p>		
<p>展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公の置かれた状況がイメージでき、話し合いの見通しができる。 ・ 順番を考えず、自分勝手な行動をする気持ちがあることが分かる。 ・ 席に座れなかったのは母のせいだと考えるよし子の気持ちが分かる。 ・ きまりを守るのは、みんなが気持ちよく生活するためにあることが分かる。 ・ きまりを進んで守ろうとする気持ちを持つことができる。 	<p>基本発問（中心発問）</p> <p>順番を待たずに一番先にバスに乗ろうと停留所にかけていた時、よしさんはどんなことを思っていたでしょう。</p> <p>「ほら、ごらんなさい。」と言おうとした時のよしさんはどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <p>黙ったまま窓の外をじっと見つめいつもと全然違うお母さんの顔を見ているうちに、よしさんはどんな気持ちになったでしょう。</p>	

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>みんなの周りには、どんな決まりがありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 廊下は走らない。・ 体育館は決まった日に使う。 図書館の本は、1週間以内に返す。 <p>資料を読んで心に残ったところはどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> よしさんが順番を待たずに一番先にバスに乗ろうとしたところ いつもと違ってこわい顔をしているお母さんの顔をみてよしさんは反省したと思う。 	<p>価値への方向付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びの決まり 個人生活上のきまり 集団生活上のきまり <p>傘と紙袋を準備し、イメージが湧きやすいように演技する。</p>
展開前段	<p>順番を待たずに一番先にバスに乗ろうと停留所にかけてきた時、よしさんはどんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 待っているのは、めんどくさい。早く乗って席に座りたい。 雨に濡れるし、おみやげまでベタベタになってしまう。先頭に行って、早く座りたい。 こんな雨が強く降っているのは、長靴の中にも雨が入ってしまう。あっ、バスが来た。早いもの勝ちだ。 	<p>大雨の中のバス停で待つよしさんの気持ちを十分考えさせる。</p> <p>順番を守らないといけないと考えている子には、「紙袋に雨が当たったり、長靴の中に雨が入ったりするとどんな気持ちでしょう。」と投げかけ考えさせる。</p> <p>逆に、順番通りにバスを待つ人の気持ちならどう考えるかを切り返してみる。</p>
展開後段	<p>「ほら、ごらんなさい。」と言おうとした時のよしさんはどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨が降っているのに、早く乗りたかったのに。 お母さんが止めるから、座れなくなった。 子どもなんだから大目にみてほしい。 やっぱり席は空いていなかった。お母さんが引き戻すからだ。座ったら楽なのに。 お母さんのせいだ。 	<p>お母さんも座りたいのに、荷物も持たなくてはいけない、立っているとえらい等、すべてお母さんのせいにするよしさんの気持ちを引き出す。</p> <p>自分の非に気付いても、まだ席にこだわっているよし子の気持ち、身勝手な考えをとらえ、よし子の弱さを考えさせる。</p>
終末	<p>黙ったまま窓の外をじっと見つめいつもと全然違うお母さんの顔を見ているうちに、よしさんはどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 座りたいのは私だけではない。雨に濡れるのもみんな同じだ。順番を守らなかったことが恥ずかしい。 やっぱり私が悪かったのかな。 順番を守ればよかった。 お母さんに恥ずかしい思いをさせてしまった。 <p>今までにきまりを守れなかったことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を早く飲みたいときに、長い列ができていたので、横入りことがあった。 交差点で、急いでいたので信号無視して渡った。 	<p>きまりを守らなかったことで、周りの人にどれだけ迷惑や不快な思いさせたかを考えさせる。</p> <p><u>M男を意図的に指名し、主人公の気持ちに共感させたい。</u> <u>自分の行為を素直に反省し始める。</u> <u>親が怒っているから反省する。</u> <u>雨の日だから仕方がないと思う。</u> <u>や のような気持ちに対しては、問い返しを行う。主人公の行為は周りの人にとって、どんな気持ちにさせているか考えさせる。</u></p> <p>どんなきまりがあるか考えさせ、きまりや規則の場を広げてから自己の生活を見つめさせる。</p>
	<p>教師の説話</p>	<p>きまりや規則を守ることの大切さについて説話を通してまとめる。</p>

